

心ばいしたよ、おじいちゃん

厚木市立緑ヶ丘小三年 野口 聖菜（曾孫）

南区支部 森本 浩吉（子）の孫

戦没者 森本 利雄

戦没地 東部ニューギニア

「やっと、おじいちゃんが、パプアニューギニアから帰ってきたよ。」お母さんが、おばあちゃんの電話で教えてくれました。「ゆうべ、おそく元気に帰ってきたんだってよ」そう聞いて、わたしは、いつもよかったなとホッとします。私の、おじいちゃんは横浜に住んでいます。あそびに行くと、そつとおこづかいをくれたり、運動会を毎年見に来てくれるやさしいおじいちゃんです。ふだんは、む口なおじいちゃんですが、パプアニューギニアから帰ってきた時には、いろいろなことを教えてくれます。

写真を見ながら、わたしと同じくらいの子どもたちのことを教えてくれたりします。

なぜ、おじいちゃんがパプアニューギニアに行くのかというと、それは、せんそうで死んだ人たちのいこつのちようさやしゅう集のためです。わたしのひいおじいちゃんがそこでせん死しているそうです。いこつしゅう集とは、せんそうでなくなった日本人たちのほねをさがして、日本にもって帰えることだそうです。パプアニューギニアは日本から、とてもとおい国だそうです。

おじいちゃんに教えてもらうまで、その国のことを知りませんでした。パプアニューギニアは日本のようにきれいな道ろはないそうです。川にもはしかかかっていなかったり、車がやつとの細い山道のところが多いそうです。だから、車がひつくりかえりそうになったり、ボートがてんぷくしそうになったりしながら、ジャングルの中や海の近くの村をたずねて、村の人たちがいこの話をきくのだそうです。

パプアニューギニアの人たちも、ジャングルの中などで見つけたほねをほかんしておいてくれたり、ほねのある場所をおしえてくれたり、あん内してくれたりするそうです。そうやってくろうして見つけたほねが、動物のものだったりすることがあるので、そのほねが、日本人のほねなのか、はくぶつかんの人がしんちようにけんさをするそうです。

おじいちゃんが、何回もパプアニューギニアにいこつちようさやしゅう集に行っても、せんそうでなくなった人達のほねは、まだまだたくさんこつているそうです。

おじいちゃんに見せてもらった写真には、たくさんの人たちの頭のほねや足のほね、体のぶ分の細くなったほねが写っています。かわいそうだなあとかなしくなります。

おじいちゃんの話を書いたり、写真を見せてもらったりして、せんそうはこわいなあ、と思いました。もう、ぜつたいにせんそうはしてはいけないと思いました。おじいちゃんたちもそう思いながら、いこつちようさやしゅう集をしているはずでせんそうでなくなった、たくさん日本人の人たちのいこつちが早く日本に帰ってこられたらいいなあと思いました。

パプアニューギニアから三週間ぶりに帰って来たおじいちゃんに、横浜に家ぞくで会いに行き

ました。まつ黒に日やけたおじいちゃんは、くたくたにつかれて少しやせたように見えました。私が生まれるずっと前におきたせんそうのことで、今も、いっしょうけんめいがんばっているおじいちゃんたちを、わたしは、すごいなと思います。そして、ひいおじいちゃんのいこつが、もう日本に帰ってきていたらいいなと思いました。

お母さんから、「また、らい月パプアニューギニアへおじいちゃんは、ちようさに行くんだって」おばあちゃんから電話があつたよ、と教えてくれました。

私は、また心ばいだなあ、と思いました。

（夏休みの宿題より）